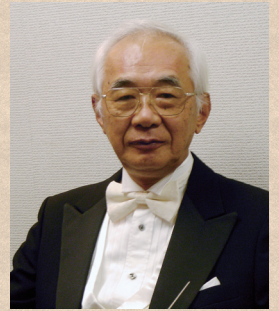




おぎゃー献金合奏団 コンサート

指揮者 紹介 保科 洋

東京都出身。東京芸術大学作曲科を1960年に卒業、卒業作品にてその年の第29回毎日音楽コンクール（現日本音楽コンクール）作曲部門（管弦楽）で第1位を受賞する。作品は管弦楽曲、オペラ、吹奏楽曲、室内楽曲、合唱曲、ミュージカルなど幅広いが、特に、2008年11月にイタリアで行なわれた国際ホルンコンクールにおいて、ホルンとオーケストラのための「巫女の舞」が必須課題曲に選ばれ、世界各国から参加した若いホルン奏者によって熟演されるなど、作品のいくつかは海外でも広く演奏されている。



指揮活動もシエナ・ウインドオーケストラをはじめとして幅広く行っているが、特にアマチュアを対象とした指導法は、そのユニークな演奏解釈理論（「生きた音楽表現へのアプローチ」、音楽之友社）とともに定評がある。このような長年にわたる教育・指導活動が評価されて、平成27年度秋の叙勲において「瑞宝中綬章」が授与された。また、28年度春には兵庫県文化功労賞を授与された。

主な作品、オペラ「はだしのゲン」「古祀」「風紋」「復興」その他。

兵庫教育大学名誉教授、浜松アクティシティ音楽院音楽監督、日本バンドクリニック委員会名誉顧問、フィルハーモニックウインズ浜松音楽監督

おぎゃー献金基金と合奏団

昭和38年、鹿児島県大口市（現伊佐市）で産婦人科を開業していた遠矢善栄博士が、近くに住む重症心身障がい児の三姉妹をみて、何とか救済してあげたいと救いの手をさしのべたのが『おぎゃー献金』の始まりです。これらの子供たちに少しでも幸福を分け与えたいと考え、健康な赤ちゃんをお産されたお母さん方と、それに立ち会った医師や看護師さんたちが愛の献金をと発案されたのがこの運動の発端となりました。

遠矢博士の提案により、当時の日本母性保護医協会（日母）鹿児島県支部ではこれを『おぎゃー献金』と名付け、昭和39年1月から県内でこの運動を開始し、さらに全国的にひろめたいと日母本部に提案しました。そこで昭和39年3月開催の日母定例代議員会にはかったところ満場一致で可決され、同年7月1日、東大分院講堂において『おぎゃー献金全国運動発足の集い』が開催されました。



おぎゃー献金提唱者 遠矢善栄先生 記念碑
〔所在地：鹿児島県伊佐市〕

その後、平成22年11月1日には、公益財団法人日母おぎゃー献金基金に移行し、また平成25年7月に秋篠宮妃殿下ご臨席のもと、おぎゃー献金運動50周年記念式典が東京會館において開催されました。そして同年、おぎゃー献金推進活動の一環として「おぎゃー献金合奏団」が結成されました。

おぎゃー献金基金

「健康で生まれてほしい」これから誕生する赤ちゃんへ、家族の切なる願いです。赤ちゃんの「おぎゃー」という泣声とともにこの願いは満たされます。でも、ごくわずかですが遺伝病や心身に障がいをもつ赤ちゃんがいます。

「おぎゃー献金」は、こころと身体に障がいをもつ子ども達に思いやりの手をさしのべる愛の運動です。献金は主に日本全国の産婦人科医院・病院などを通して、公益財団法人日母おぎゃー献金基金に集められ、心身障がい児のための施設や心身障がいの予防の療育等に関する研究を補助するために使われています。（公益財団法人日母おぎゃー献金基金 HP より）

献金のしくみについては、以下のホームページをご覧ください。

<http://www.ogyaa.or.jp/about/howto.html>

コンサート当日、献金も受け付けております。

